



かわしま



5月号

令和4年 4月28日(木)
横浜市立川島小学校

魔法使い



校長 石塚 直実

校庭のソメイヨシノや八重桜は葉桜になりました。ヤマツツジが甘い香りを漂わせています。ニホンミツバチがその芳香に吸い寄せられるように飛んでいきました。甘い香りと新緑に包まれた本校はまるで「おとぎの国」のようです。

私は東京都大田区出身です。いわゆる下町の風情を残した大好きなふるさとです。小学校時代は、もう一つ心のふるさとがありました。それは、母方の田舎です。栃木県の栃木市で、祖父母が元気な頃は、毎年夏休みに遊びに行っては、祖父母の愛情を心いっぱい受けながら、自然と共に過ごすことができました。しかし、祖父が亡くなり、祖母もリウマチを患うようになりました。

4年生の夏休みに、いつものように田舎に帰りました。囲炉裏のある大好きなおいのお家に行くと、「おばあちゃんは、入院しちゃったよ。」と聞かされました。慌てて病院に行くと、薬の副作用で顔がまん丸に腫れた祖母が横になっていました。「おばあちゃん、大丈夫?」「何か食べたいものはない?」と聞くと、弱々しい笑顔で「直実、よく来たね。大福が食べたいよ。」とのこと。そこで、サンダルの鼻緒が足の指に擦れて血が出るまで探しましたが、日曜日のためか和菓子屋はどこも閉まっていました。仕方がなく、帰って他に食べたいものはないかと聞くと、「じゃあ、ブドウが食べたい。」とのこと。急いで買いに行って、皮をむいて食べさせました。よく見ると、祖母の目から涙が流れています。それから自宅に戻り、ひと月ほどして祖母が亡くなったという知らせを受けました。涙が止まりませんでした。それでも自分ができることを最後にできて本当によかったと思いました。

そして、ゆめをもって、教師になりました。その中で、子どもたちと「ふれあい」をさせていただいた人生の先輩たちは、子どもたちが傍にいて、にこにこしていることに気がつきました。「そうか、先輩たちは子どもたちが存在するだけでうれしいのだ。」と実感しました。そうです。子どもたちは先輩たちや私たちを幸せにする魔法使いなのです。入学式の折には新1年生にも「君たちは周りの人を幸せにする魔法使いなんだよ。」「その最高の魔法は笑顔なんだよ。」と話しました。

今月はゆめっ子運動会があります。川島小の小さな魔法使いたちの「笑顔」や「がんばり」や「輝き」をご覧になり、是非その魔法にかかりにいらしてください。お待ちしております。